
INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

TOKYO IDWR

東京都感染症情報センター

東京都感染症週報

2014年第3週
(1月13日～1月19日)

- * 2014年1月22日現在の情報により作成しています。
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。
<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/>
- * 今週は月報告(2013年12月)の疾患及び感染症豆知識
「結核の多剤耐性菌と新薬」も掲載しています。

平成26(2014)年1月23日発行

編集・発行

東京都健康安全研究センター
健康危機管理情報課

電話：03-3363-3213(直通)
FAX：03-5332-7365
e-mail：idsc@tokyo-eiken.go.jp

全数把握対象疾患 報告数（一類～四類） 2014年3週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		52週	1週	2週	3週	年累計	3週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							
	結核	67	4	73	40	117	263	750
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 *1							
	鳥インフルエンザ(H5N1)							
指定	鳥インフルエンザ(H7N9) *2							
三類	コレラ							
	細菌性赤痢	2		2		2		4
	腸管出血性大腸菌感染症						11	20
	腸チフス				1	1	2	2
	パラチフス			1		1		
四類	E型肝炎			1		1		2
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎						4	6
	エキノコックス症							
	黄熱							
	オウム病			1		1		1
	オムスク出血熱							
	回帰熱							
	キャサヌル森林病							
	Q熱							
	狂犬病							
	コクシジオイデス症							
	サル痘							
	重症熱性血小板減少症候群 *3							
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							
	炭疽							
	チクングニア熱							
	つつが虫病			1		1	2	13
	デング熱	1			1	1	2	5
	東部ウマ脳炎							
鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)								
ニパウイルス感染症								
日本紅斑熱								
日本脳炎								

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		52週	1週	2週	3週	年累計	3週	年累計
四 類	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症							
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	発しんチフス							
	ボツリヌス症							
	マラリア						2	5
	野兔病							
	ライム病							
	リッサウイルス感染症							
	リフトバレー熱							
	類鼻疽							
	レジオネラ症			8	1	9	14	54
	レプトスピラ症						1	2
ロッキー山紅斑熱								
							2014/1/22集計	

*1 病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

*2 2013年5月6日より新たに追加指定された。

*3 病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。2013年3月4日より新たに追加指定された。

(全数把握対象疾患のコメント・一類～四類)

〈二類感染症〉

結核 40件 肺結核 24件、その他の結核 2件、肺結核及びその他の結核 1件、無症状病原体保有者 9件、疑似症 4件、年齢は5歳未満 1件、20代 2件、30代 3件、40代 9件、50代 7件、60代 4件、70代 10件、80代 4件、推定感染地は国内 40件であった。

〈三類感染症〉

腸チフス 1件 患者、年齢は70代、推定感染地は国内又は国外(不明)、推定感染経路はその他(不明)であった。2013年第19週以降、国内感染が推定される事例は計 10例となった。

〈四類感染症〉

デング熱 1件 患者、年齢は10歳未満、推定感染地はインドネシアであった。

レジオネラ症 1件 肺炎型、年齢は60代、推定感染地は国内、推定感染経路は水系感染(温泉)であった。

※ 第2週該当分として〔三類〕細菌性赤痢 1件の追加報告があった。

全数把握対象疾患 報告数（五類） 2014年3週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		52週	1週	2週	3週	年累計	3週	年累計
五 類 (全 数 届 出)	アメーバ赤痢	4		2	2	4	13	30
	ウイルス性肝炎 (A型・E型を除く)			2	2	4	3	9
	急性脳炎 *1			1		1	6	20
	クリプトスポリジウム症			1		1	1	2
	クロイツフェルト・ヤコブ病						1	6
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1			3	3	4	13
	後天性免疫不全症候群	11		12	16	28	15	37
	ジアルジア症							
	侵襲性インフルエンザ菌感染症 *2	1		3		3	1	16
	侵襲性髄膜炎菌感染症 *2			1		1	1	3
	侵襲性肺炎球菌感染症 *2	6		14	3	17	27	116
	先天性風しん症候群			1		1		4
	梅毒	5		7	8	15	19	41
	破傷風			2		2	1	6
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1					1	2
	風しん	5		3	2	5	3	17
麻しん				1	1	5	25	
2014/1/22集計								

*1 ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

*2 2013年4月1日より新たに追加指定された。

（ 全数把握対象疾患のコメント・五類 ）

〈五類感染症〉

アメーバ赤痢 2件 腸管及び腸管外 2件、年齢は40代 1件、70代 1件、推定感染地は国内 2件、推定感染経路は異性間性的接触又は経口感染 1件、その他(不明) 1件であった。

ウイルス性肝炎 2件 B型 2件、年齢は20代 1件、30代 1件、推定感染地は国内 2件、推定感染経路は性的接触 2件(同性間 1件、性別不明 1件)であった。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症 3件 A群 3件、年齢は60代 1件、70代 2件、推定感染地は国内 3件、推定感染経路は創傷感染(左膝) 1件、その他(不明) 2件であった。うち1件は死亡例であった。

後天性免疫不全症候群 16件 AIDS 2件、無症候キャリア 13件、その他 1件、AIDS患者の年齢は30代 1件、50代 1件、無症候キャリア及びその他の年齢は20代 5件、30代 4件、40代 5件、推定感染地は国内 12件、不明 4件、推定感染経路は性的接触 14件(同性間 13件、異性間 1件)、不明 2件であった。無症候キャリアの1事例は梅毒(第3週)との重複感染を認めている。

侵襲性肺炎球菌感染症 3件 血清型は未実施 3件、年齢は20代 1件、40代 1件、60代 1件、推定感染地は国内 3件、推定感染経路は接触感染(7歳の小児から) 1件、その他(腹腔内感染症) 1件、その他(不明) 1件、肺炎球菌ワクチン接種歴は1回目接種済み 1件、接種なし 1件、不明 1件であった。

梅毒 8件 早期頭症梅毒Ⅱ期 3件、無症候梅毒 5件、年齢は30代 4件、50代 3件、60代 1件、推定感染地は国内 8件、推定感染経路は性的接触 8件(同性間 6件、異性間 1件、性別不明 1件)であった。

風しん 2件 臨床診断例 2件、年齢は5歳未満 1件、40代 1件、推定感染地は国内 2件、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 1件、その他(不明) 1件、風しん含有ワクチン接種歴は接種なし 1件、不明 1件であった。

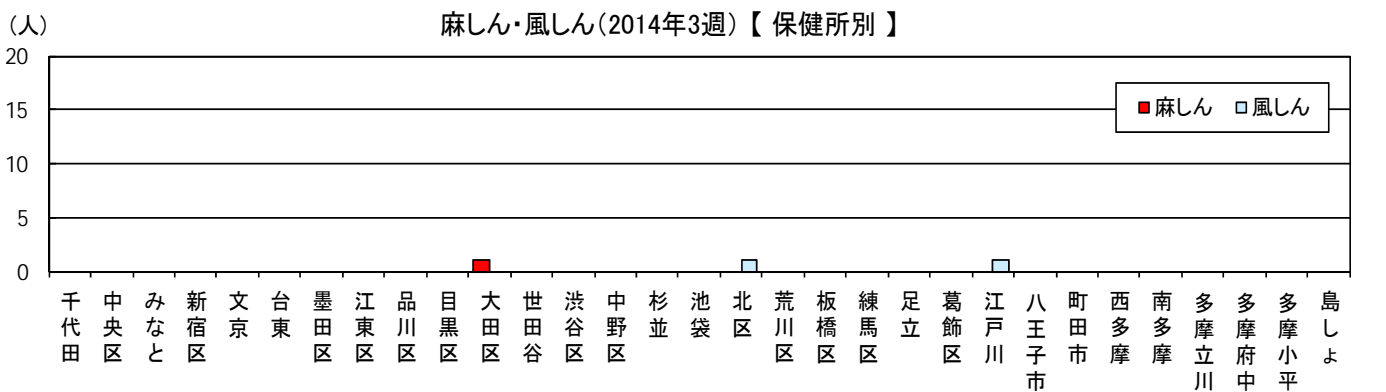
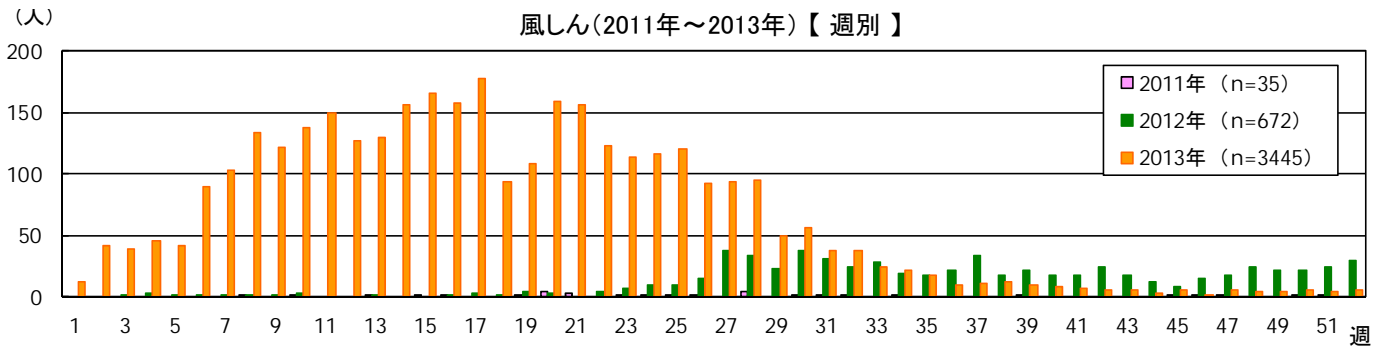
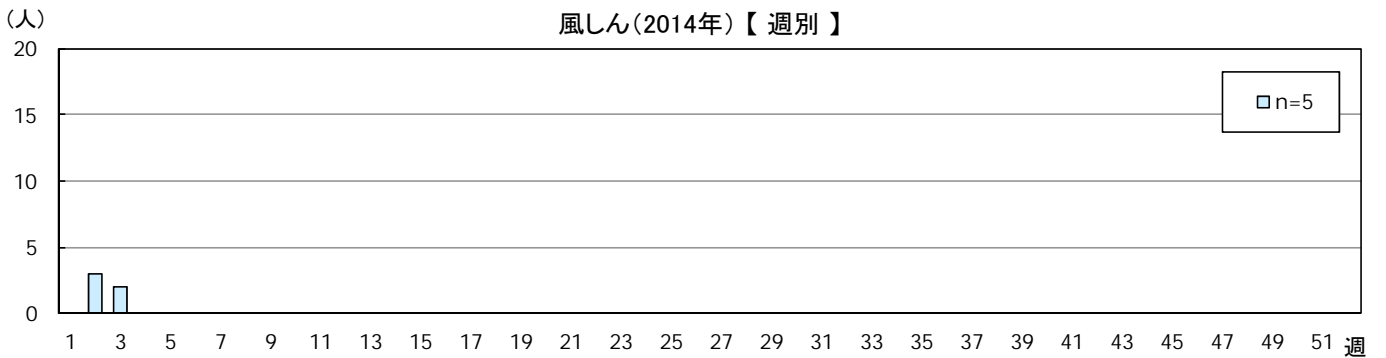
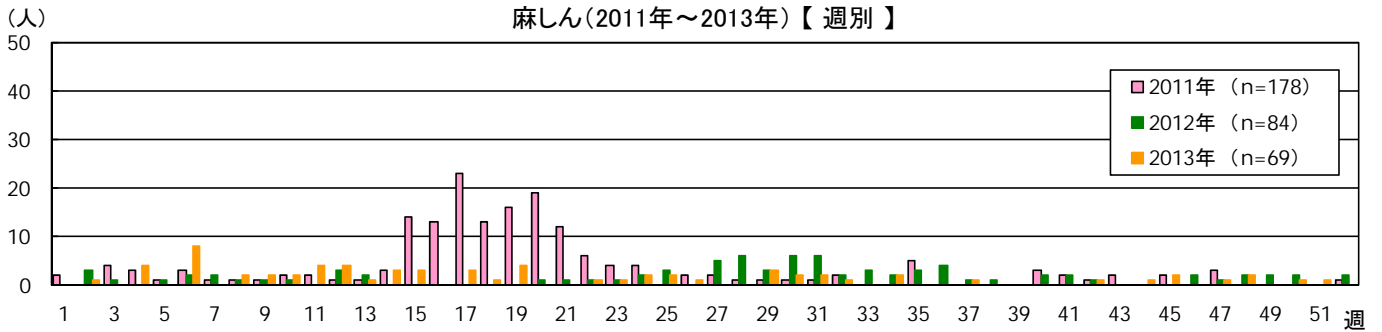
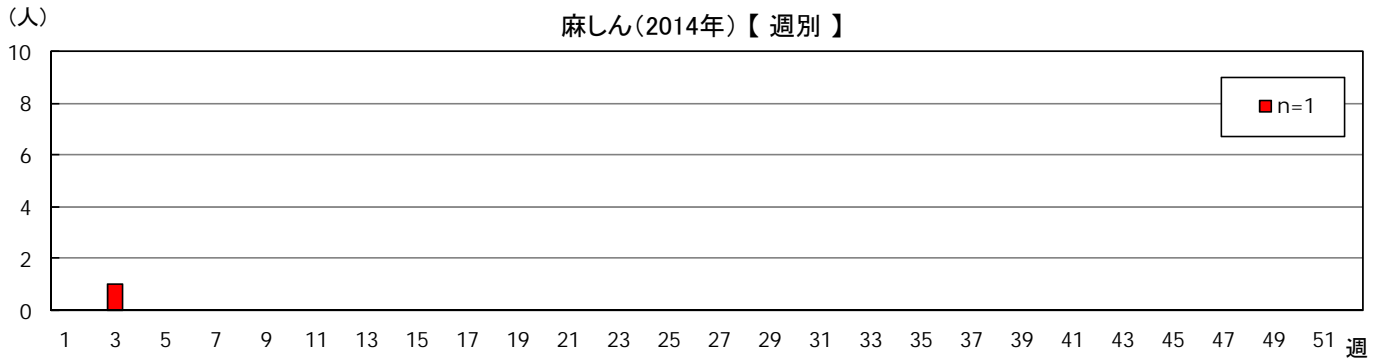
麻しん 1件 検査診断例、年齢は10歳未満、推定感染地はフィリピン、推定感染経路はその他(不明)、麻しん含有ワクチン接種歴は接種なしであった。本事例は、麻しん遺伝子検査陽性、型別はB3型であった。

※第30週該当分として〔五類〕麻しん 1件の追加報告があった。

※第52週該当分として〔五類〕侵襲性肺炎球菌感染症 1件、風しん 1件の追加報告があった。

※第2週該当分として〔五類〕侵襲性髄膜炎菌感染症 1件、侵襲性肺炎球菌感染症 3件、先天性風しん症候群 1件の追加報告があった。

全数把握対象疾患(麻しん・風しん)報告数(週別・保健所別)



定点把握対象疾患 報告数 2014年3週

定点種別	対象疾患	2013年			2014年		報告医療機関数	定点医療機関数
		52週	1週	2週	3週	定点当たり		
小児科	RSウイルス感染症	148	26	123	85	0.32	262	264
	咽頭結膜熱	156	30	111	58	0.22		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	483	67	479	404	1.54		
	感染性胃腸炎	5,429	493	3,149	2,936	11.21		
	水痘	423	99	442	201	0.77		
	手足口病	31	2	21	13	0.05		
	伝染性紅斑	52	11	94	108	0.41		
	突発性発しん	116	13	125	149	0.57		
	百日咳	4		5	2	0.01		
	ヘルパンギーナ	8	1	4	2	0.01		
	流行性耳下腺炎	37	9	62	34	0.13		
	川崎病(注1)	5	1		1	0.00		
	不明発しん症(注1)	12	2	10	10	0.04		
インフルエンザ	インフルエンザ(注2)	618	280	2,098	4,637	11.20	414	419
眼科	急性出血性結膜炎						37	39
	流行性角結膜炎	14	3	27	12	0.32		
基幹	細菌性髄膜炎(注3)	1		1	1	0.04	25	25
	無菌性髄膜炎	2	1	4	2	0.08		
	マイコプラズマ肺炎	13		5	4	0.16		
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	5			1	0.04		
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)(注4)	3	2	2	1	0.04		
	インフルエンザ入院	5	8	31	42	1.68		
2014/1/22集計								

(注1) 不明発しん症、川崎病 は東京都が独自に指定する疾患である。

(注2) 鳥インフルエンザを除く。

(注3) インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

(注4) 病原体がロタウイルスであるものに限る。2013年42週より開始

(今週の注目される定点把握対象疾患)

- ・インフルエンザの定点当たり報告数は増加し、注意報基準を超えた。
- ・感染性胃腸炎の定点当たり報告数は、前週と同程度であり、警報状態が続いている。
- ・伝染性紅斑の定点当たり報告数は、過去5年平均と比較して高い値で推移している。
- ・インフルエンザ入院の定点当たりの報告数は増加し、基幹定点からの報告数は40人を超えた。

(小児科・内科定点医療機関からのコメント)

千代田

- ・感染性胃腸炎は、13名中8名が生ガキを食べていました。

世田谷

- ・アタマジラミ 2名
- ・ロタウイルス 2歳児 1名
- ・ロタウイルス 1歳児 1名

荒川区

- ・ロタウイルス 1名

板橋区

- ・病原性大腸菌 O166、カンピロバクター 各1名

足立

- ・ロタウイルス 2歳児 1名

葛飾区

- ・アデノウイルス扁桃炎 4歳児 1名

八王子市

- ・ノロウイルス胃腸炎 1歳児 1名
- ・アデノウイルス咽頭炎 2歳児、3歳児、5歳児 各1名

多摩小平

- ・病原性大腸菌、アデノウイルス腸炎、ノロウイルス腸炎 各1名

※「インフルエンザ定点医療機関からの迅速診断結果及びコメント」は15ページに記載

定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2014年3週

定点種別	小児科										
	RS ウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎
～5か月	21	1		14	4			1			
6～11か月	26	3	1	114	19	1		39			
1歳	21	14	7	341	24	6	1	85			3
2歳	10	8	21	238	36	1	6	12			2
3歳	5	9	32	232	25		10	7		1	2
4歳	1	10	67	246	29	1	15	3			4
5歳	1	4	48	218	13	1	17	1			2
6歳		2	51	174	17		19				7
7歳		1	40	181	9		15	1			6
8歳		1	35	139	6		10				2
9歳			30	114	4	2	7				1
10～14歳		3	50	315	11		6				2
15～19歳			1	111	1						
20～29歳		2	21	499	3	1	2		2	1	3
30～39歳											
40～49歳											
50～59歳											
60～69歳											
70～79歳											
80歳以上											
合計	85	58	404	2,936	201	13	108	149	2	2	34
先週比	-38	-53	-75	-213	-241	-8	14	24	-3	-2	-28

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点種別	小児科		インフルエンザ	眼科		基幹					
	川崎病	不明 発しん症	インフル エンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズマ 肺炎	クラミジ ア肺炎	感染性 胃腸炎 (ロタウイルス)	インフル エンザ 入院
～5か月			13								2
6～11か月			39								1
1歳		3	191								2
2歳		1	196								1
3歳		1	236					1			1
4歳	1	3	244					1			
5歳		2	277								2
6歳			327							1	
7歳			320								4
8歳			279				1				1
9歳			227								1
10～14歳			586					1			1
15～19歳			164								
20～29歳			283		2						1
30～39歳			479		3			1			
40～49歳			441		4	1	1				1
50～59歳			185		2						3
60～69歳			109								6
70～79歳			25		1						8
80歳以上			16						1		7
合計	1	10	4,637		12	1	2	4	1	1	42
先週比	1		2,539		-15		-2	-1	1	-1	11

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点把握対象疾患 報告数【保健所別・定点当たり】 2014年3週

定点種別	小児科										
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎
千代田	0.33			6.67	1.67			0.67			
中央区		0.33	0.67	6.67	0.33			0.33			
みなと	0.83	0.33	1.50	11.00	1.83		0.33	0.33			0.17
新宿区	0.50	0.13	1.25	9.25	0.88			0.13			0.13
文京		0.25	0.75	6.50	0.50		0.75	0.50			
台東	0.25	0.50	0.50	18.50	1.00	0.25		1.00			
墨田区	0.80		1.20	9.80	0.60		0.20	1.00			
江東区	0.44	0.11	1.00	17.11	0.67	0.22		0.44			
品川区	0.38	0.25	1.63	10.13	0.75		0.88	0.50			0.13
目黒区				6.80			0.20				
大田区	0.46	0.69	2.15	12.92	0.77		1.00	0.69	0.08		0.23
世田谷	0.25	0.56	1.38	11.75	0.69		2.06	0.25			0.06
渋谷区				12.75	0.50		0.25	0.50			
中野区	0.14		0.86	12.43	0.29			0.43			
杉並	0.20		0.70	8.80	0.70			0.20			0.20
池袋	0.20	0.40	1.20	8.20	0.40		0.40				
北区			0.33	6.00	0.33			1.17			
荒川区	0.75	0.50	2.25	10.00	0.50	0.25		0.50		0.25	0.50
板橋区			0.50	8.80	0.90		0.70	0.70			0.20
練馬区	0.08	0.08	1.31	8.00	0.62			0.77			
足立	0.46	0.23	0.85	13.46	0.54		0.08	0.85	0.08		0.31
葛飾区		0.13	0.75	9.63	1.00	0.13	0.63	0.63			
江戸川	0.17	0.58	2.17	15.67	1.33	0.08	1.33	0.83			0.50
八王子市	0.64	0.45	4.18	17.27	0.64	0.09	0.09	0.09			
町田市	0.13		4.25	18.25	0.75		0.13	0.38			0.38
西多摩	0.25	0.38	0.88	7.63	0.63			0.25			0.63
南多摩	0.44	0.11	2.22	9.78	0.67		0.22	0.78		0.11	0.11
多摩立川	0.79		2.21	8.71	0.64		0.07	0.50			
多摩府中	0.24	0.05	1.52	13.38	1.29	0.10	0.10	0.76			0.05
多摩小平	0.50	0.29	2.50	8.50	0.64	0.07	0.57	1.14			0.07
島しょ					1.00	3.00	1.00				
東京都	0.32	0.22	1.54	11.21	0.77	0.05	0.41	0.57	0.01	0.01	0.13

定点種別	小児科		インフルエンザ	眼科		基幹					
	川崎病	不明発しん症	インフル エンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズマ 肺炎	クラミジア 肺炎	感染性 胃腸炎 (ロタウイルス)	インフル エンザ 入院
千代田			8.25								
中央区			15.60								
みなと			12.33								2.00
新宿区		0.13	6.73								
文京			9.57								2.00
台東			6.43								
墨田区		0.20	10.88				1.00	1.00			1.00
江東区			11.71								
品川区	0.13		6.17								
目黒区			3.88		2.00						
大田区			11.57								
世田谷		0.13	9.60		0.50		0.50				
渋谷区			7.29		1.00			2.00		1.00	4.00
中野区			9.82								
杉並			8.44								
池袋			14.75								2.00
北区		0.17	8.70		2.00						
荒川区			22.29								
板橋区			9.00		0.50						2.00
練馬区			10.25								
足立			13.55		0.50						
葛飾区			12.15								3.00
江戸川			9.37		1.00						
八王子市		0.09	18.11		0.50						14.00
町田市		0.13	11.38								
西多摩			15.79					1.00			1.00
南多摩			14.00								
多摩立川			10.95			1.00					
多摩府中		0.14	11.55		0.33				0.33		3.33
多摩小平			12.05								0.50
島しょ			10.50								
東京都	0.00	0.04	11.20		0.32	0.04	0.08	0.16	0.04	0.04	1.68

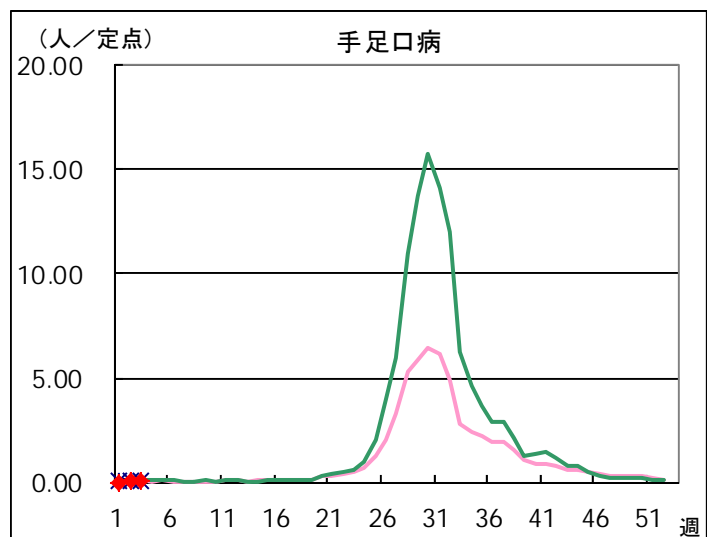
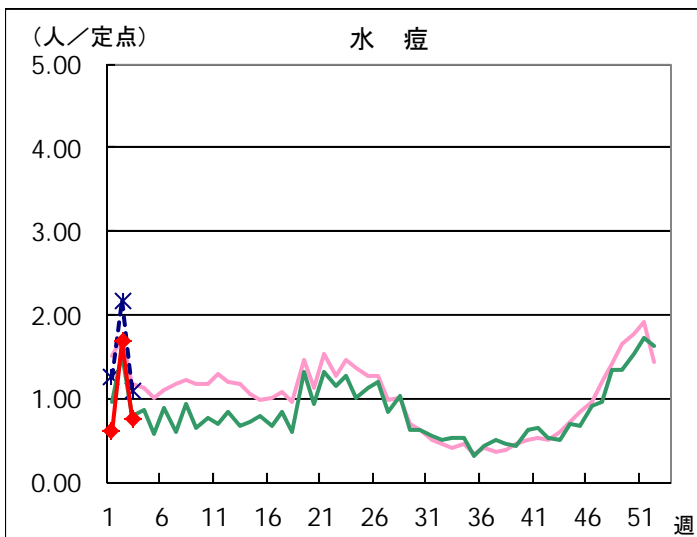
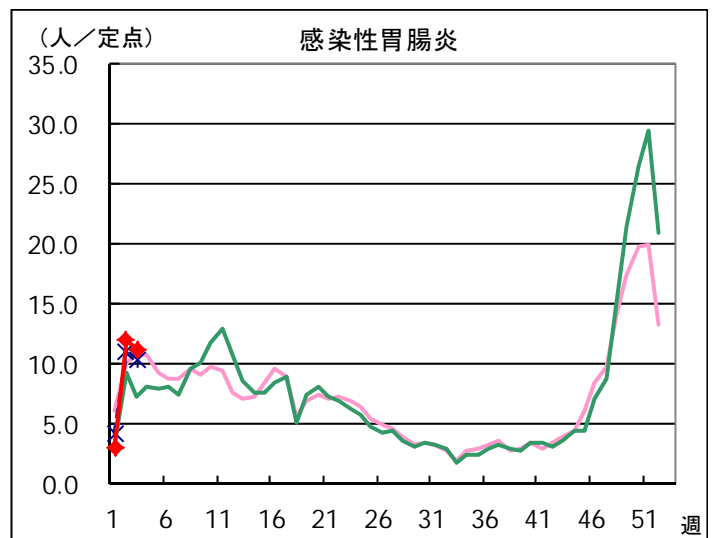
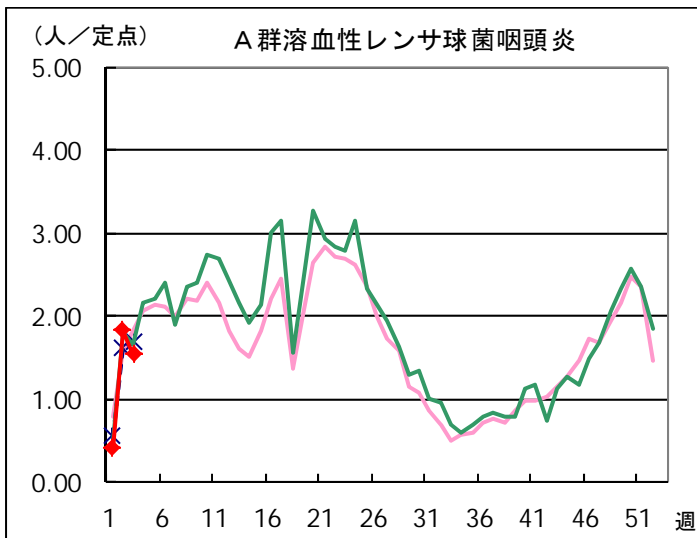
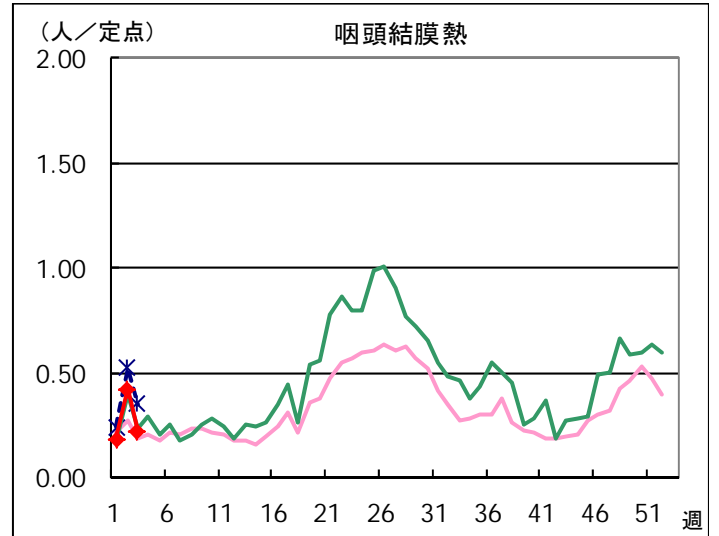
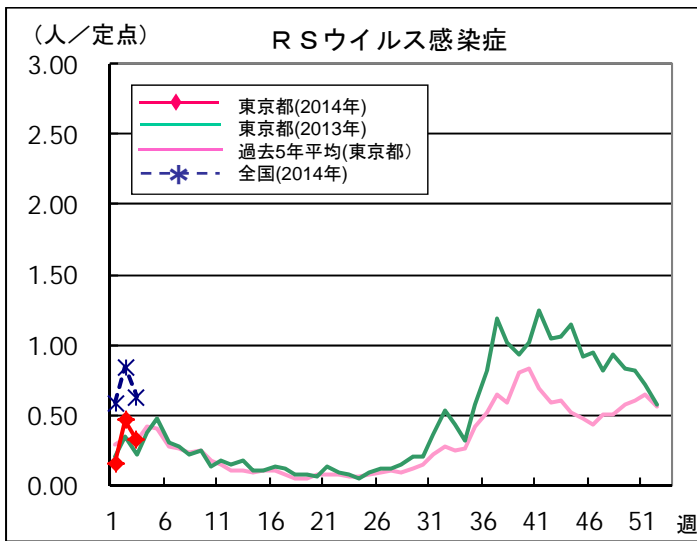
定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2014年3週

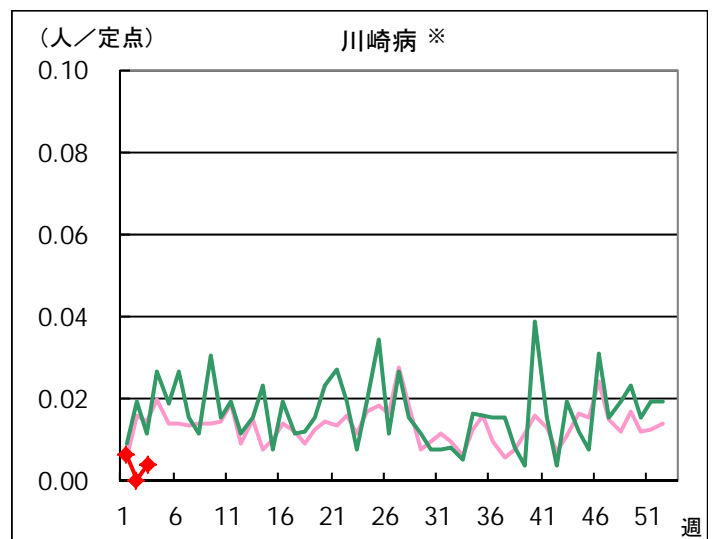
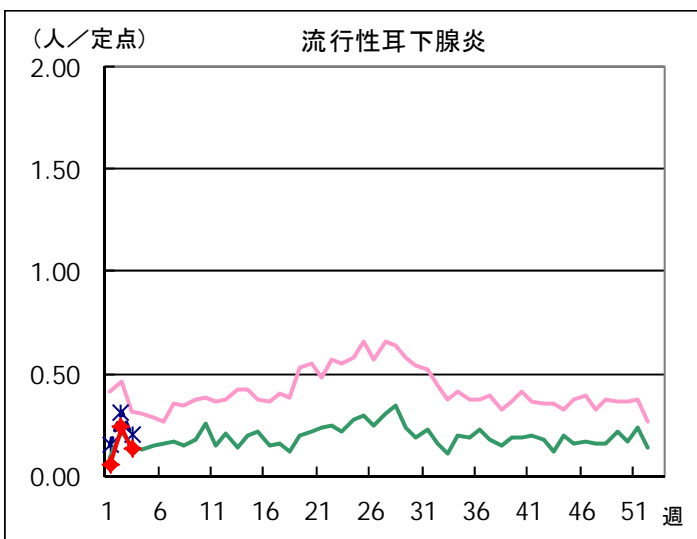
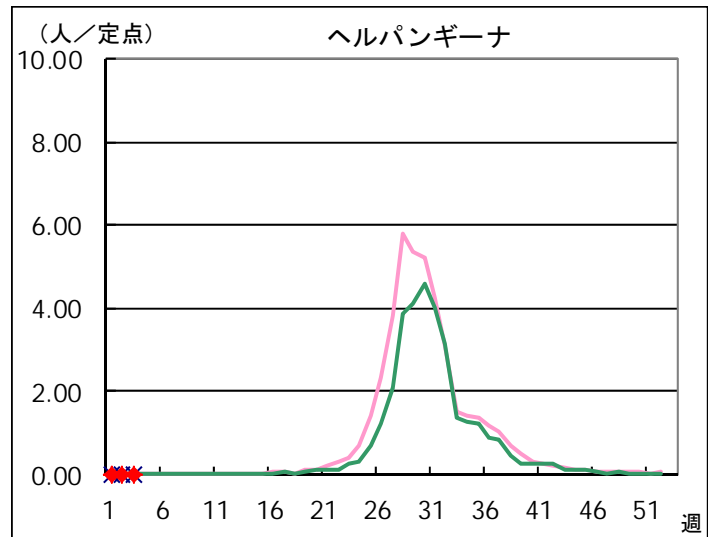
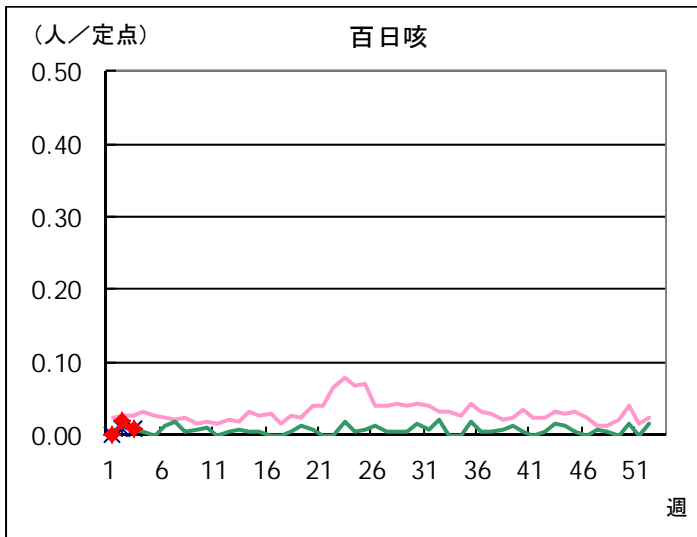
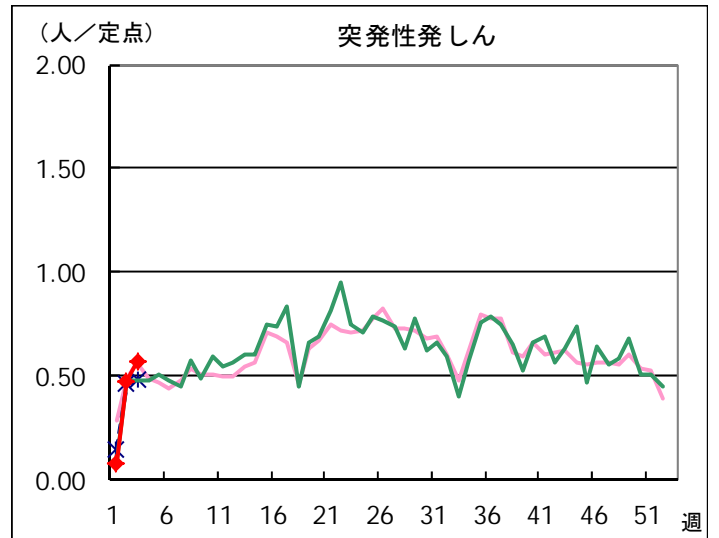
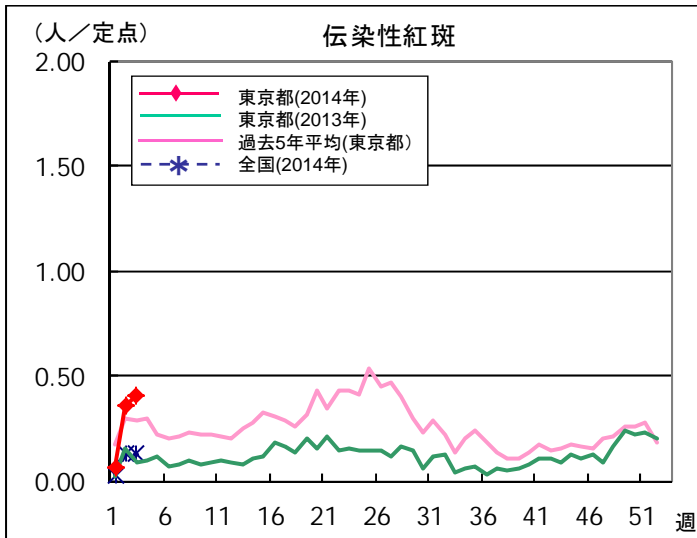
定点種別	小児科										
	RSウイルス 感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎
千代田	1			20	5			2			
中央区		1	2	20	1			1			
みなと	5	2	9	66	11		2	2			1
新宿区	4	1	10	74	7			1			1
文京		1	3	26	2		3	2			
台東	1	2	2	74	4	1		4			
墨田区	4		6	49	3		1	5			
江東区	4	1	9	154	6	2		4			
品川区	3	2	13	81	6		7	4			1
目黒区				34			1				
大田区	6	9	28	168	10		13	9	1		3
世田谷	4	9	22	188	11		33	4			1
渋谷区				51	2		1	2			
中野区	1		6	87	2			3			
杉並	2		7	88	7			2			2
池袋	1	2	6	41	2		2				
北区			2	36	2			7			
荒川区	3	2	9	40	2	1		2		1	2
板橋区			5	88	9		7	7			2
練馬区	1	1	17	104	8			10			
足立	6	3	11	175	7		1	11	1		4
葛飾区		1	6	77	8	1	5	5			
江戸川	2	7	26	188	16	1	16	10			6
八王子市	7	5	46	190	7	1	1	1			
町田市	1		34	146	6		1	3			3
西多摩	2	3	7	61	5			2			5
南多摩	4	1	20	88	6		2	7		1	1
多摩立川	11		31	122	9		1	7			
多摩府中	5	1	32	281	27	2	2	16			1
多摩小平	7	4	35	119	9	1	8	16			1
島しょ					1	3	1				
東京都合計	85	58	404	2,936	201	13	108	149	2	2	34

定点種別	小児科		インフルエンザ	眼科		基幹					
	川崎病	不明発しん症	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	インフルエンザ入院
千代田			33								
中央区			78								
みなと			111								2
新宿区		1	74								
文京			67								2
台東			45								
墨田区		1	87				1	1			1
江東区			164								
品川区	1		74								
目黒区			31		2						
大田区			243								
世田谷		2	240		1		1				
渋谷区			51		1			2		1	4
中野区			108								
杉並			135								
池袋			118								2
北区		1	87		2						
荒川区			156								
板橋区			135		1						2
練馬区			205								
足立			271		1						
葛飾区			158								3
江戸川			178		2						
八王子市		1	326		1						14
町田市		1	148								
西多摩			221					1			1
南多摩			196								
多摩立川			230			1					
多摩府中		3	381		1				1		10
多摩小平			265								1
島しょ			21								
東京都合計	1	10	4,637		12	1	2	4	1	1	42

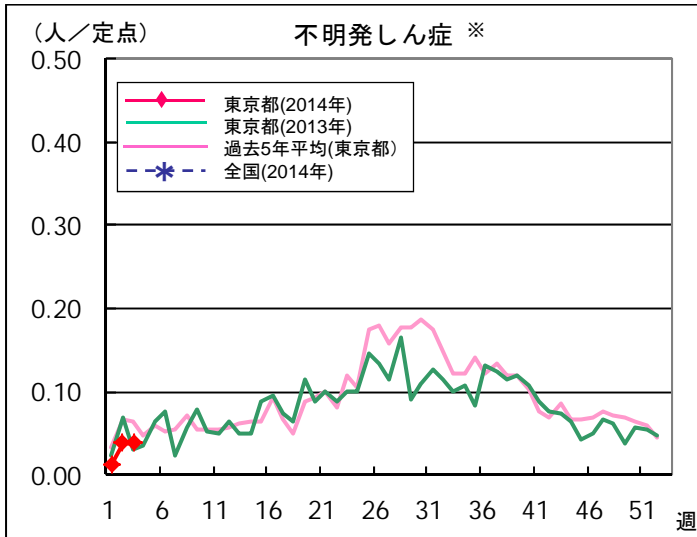
定点把握対象疾患 週別報告数(2014年3週 現在)

◆ 小児科定点



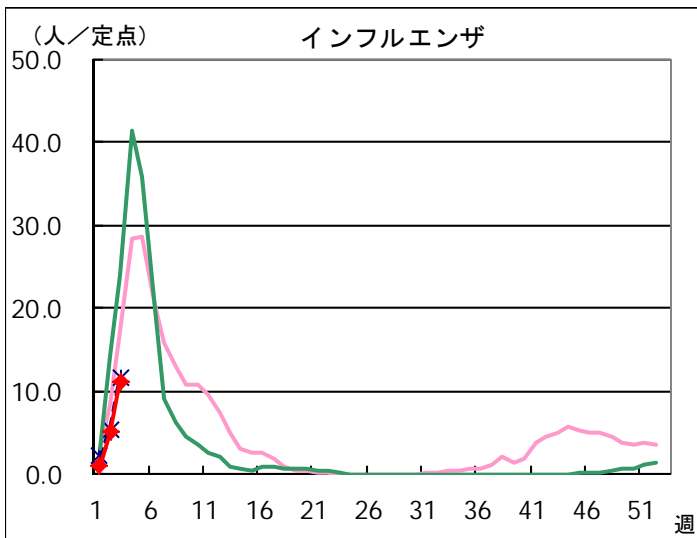


※ 東京都独自対象疾患

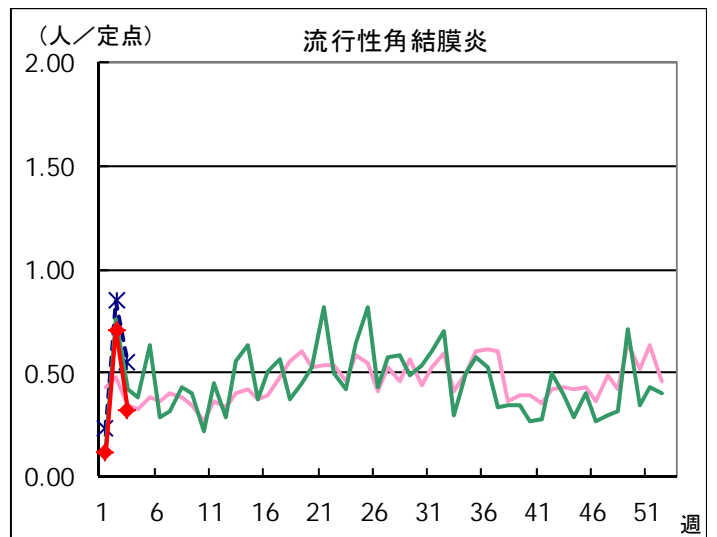
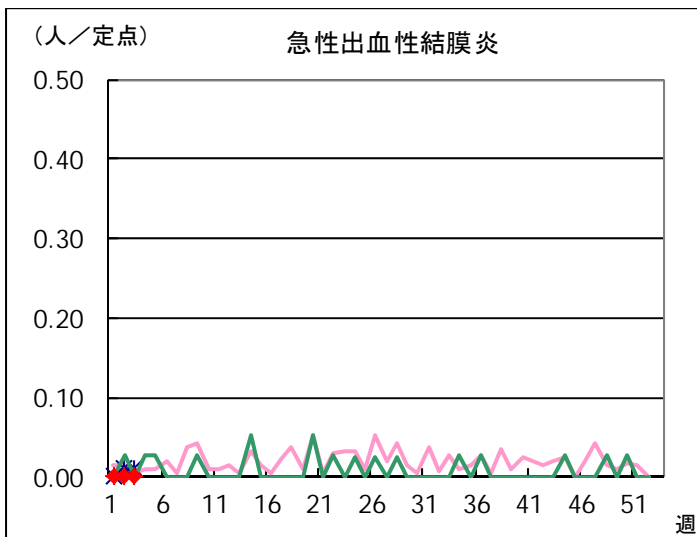


※ 東京都独自対象疾患

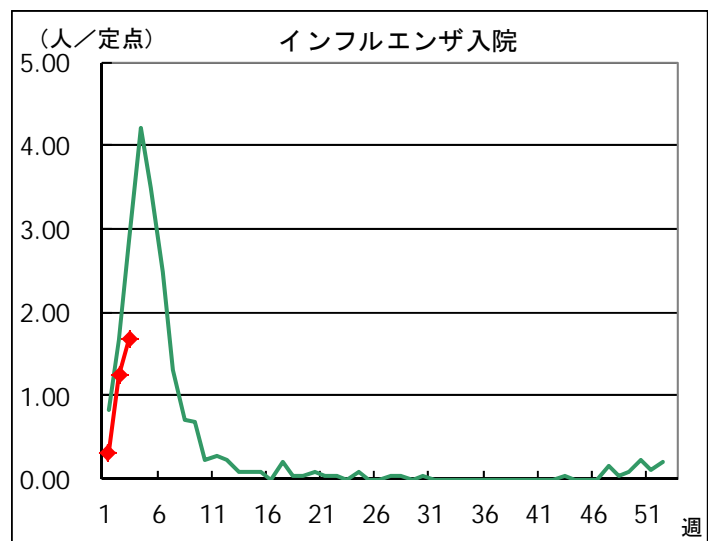
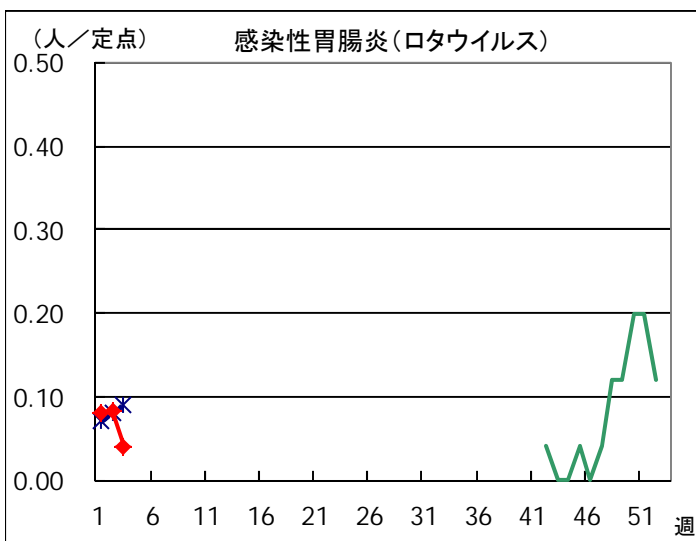
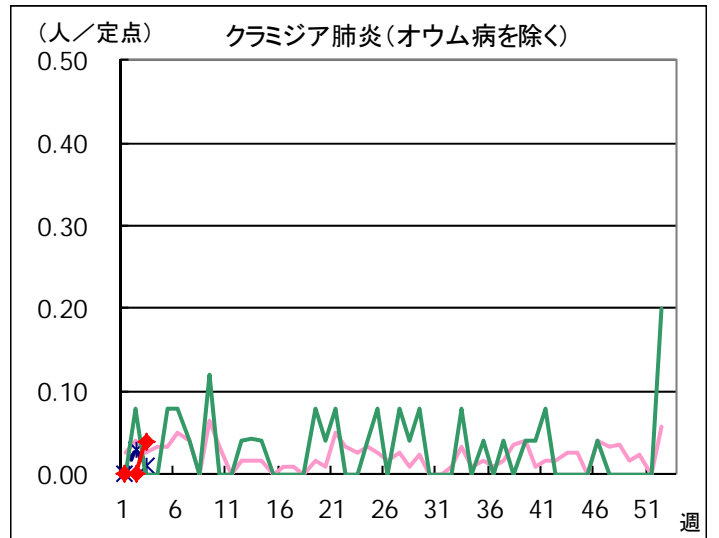
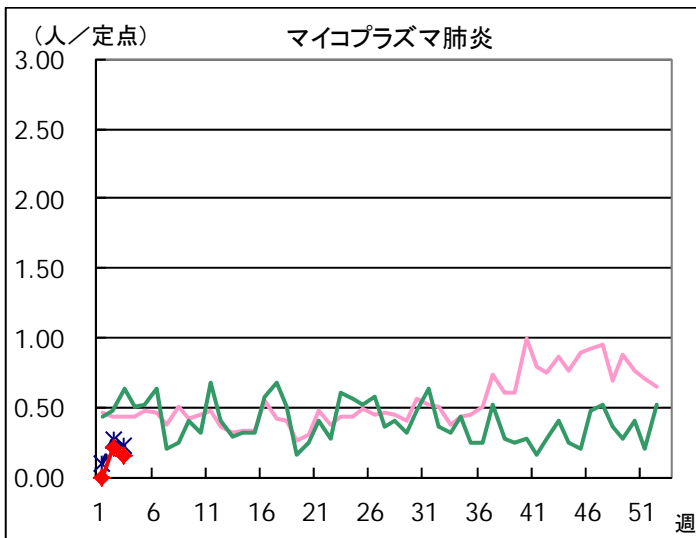
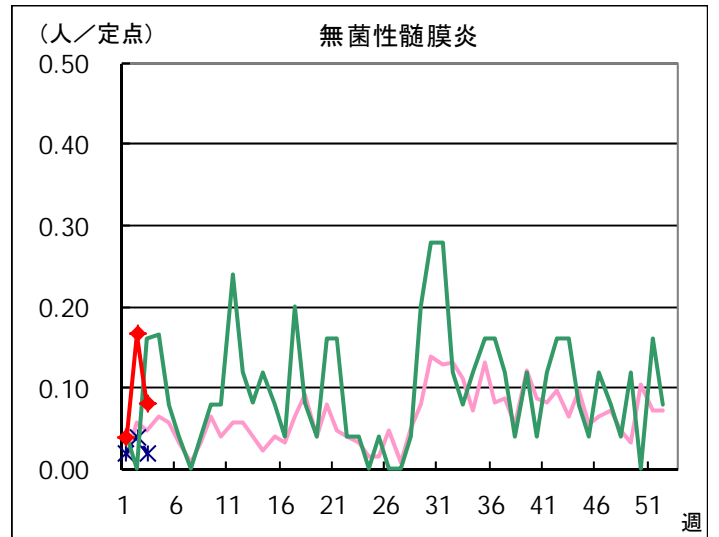
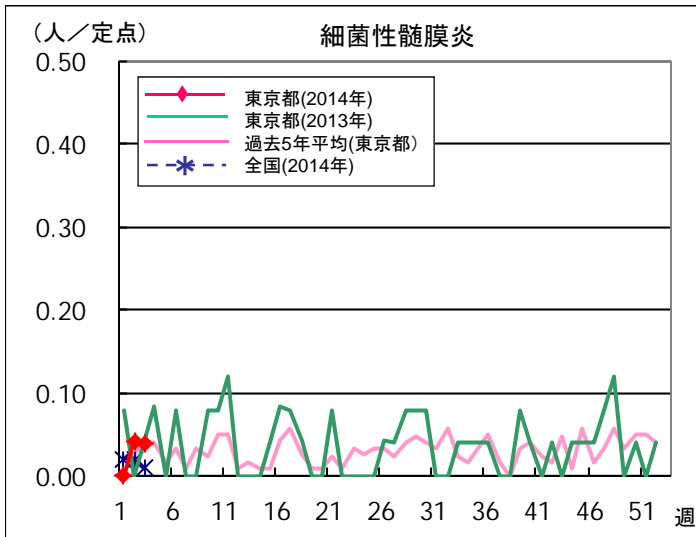
◆ インフルエンザ定点



◆ 眼科定点



◆ 基幹定点



インフルエンザ定点医療機関からの迅速診断結果及びコメント

管轄保健所	インフルエンザ 迅速診断結果			医療* 機関数	コメント
	A型**	B型	記載なし		
千代田	4	1		1	
みなと	54	12		5	・AH1pdm09型 15名
新宿区	12	2	1	3	・AH1pdm09型 1名
文京	12	5	23	3	・AH1pdm09型 2名 ・A型が多数を占める。B型は1割程度。
台東	24	2		4	
墨田区	59	27		8	・AH1pdm09型 2名
江東区	97	44		11	・AB同時感染 1名
品川区	30	24	2	7	
目黒区	15	14		5	
大田区	57	28	13	10	・AB同時感染 1名
世田谷	59	21	13	11	・AH1pdm09型 1名 ・今週から急激に増加。近隣の1保育園でAB型混在しているが、基本的にはA型が多い。 ・今まで18歳以上だったが、今回、小学生7歳児がいます。
渋谷区	5	7	9	4	
中野区	67	33		10	・臨床診断 2名 ・臨床診断 4名 ・臨床診断 2名
杉並	63	9		6	
池袋	14	3	46	3	・インフルエンザ流行中
北区	50	15	14	8	・インフルエンザが流行し始めました。
荒川区	61	19		3	・不明・臨床診断 3名
板橋区		2		1	
練馬区	74	25	2	11	・インフルエンザはまだ増加傾向ではない。
葛飾区	94	35	2	11	・AH1pdm09型 7名
江戸川	22	11		4	
八王子市	183	46	21	13	
西多摩	140	21		9	
南多摩	131	22	15	10	
多摩立川	63	21	6	7	
多摩府中	58	21	6	11	
多摩小平	125	36	9	12	・AB同時感染 1名
島しょ	19	1		1	
総計	1,592	507	182	192	

* 迅速診断結果の報告があった医療機関数

**AH1pdm09型は含まない

定点(病原体)医療機関から搬入された検体の検査情報

◇病原体検出状況(インフルエンザウイルスを除く)

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
12/20	喘息性気管支炎	4M	鼻汁	ライノウイルス	遺伝子
1/6	突発性発しん	4M	咽頭拭い液	アデノウイルス ライノウイルス ヒトヘルペスウイルス 6型	
1/6	不明発しん症	5M	咽頭拭い液	アデノウイルス	
12/18	感染性胃腸炎	8M	糞便	ライノウイルス ノロウイルスG II	
12/26	突発性発しん	9M	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス 6型	
12/27	感染性胃腸炎	10M	直腸拭い液	ノロウイルスG II	
1/7	感染性胃腸炎	10M	直腸拭い液	ノロウイルスG II	
12/20	感染性胃腸炎	10M	糞便	ノロウイルスG II	
1/6	感染性胃腸炎	11M	直腸拭い液	ノロウイルスG II	
1/6	熱性けいれん重積	11M	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス 6型	
12/19	感染性胃腸炎	1	糞便	ノロウイルスG II	
12/16	急性咽頭炎	1	咽頭拭い液	RSウイルス エンテロウイルス 71型	
12/24	急性扁桃炎	1	咽頭拭い液	アデノウイルス ライノウイルス	
12/28	突発性発しん	1	咽頭拭い液	アデノウイルス ヒトヘルペスウイルス 7型	
12/28	突発性発しん	1	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス 6型	
12/26	急性気管支炎	2	咽頭拭い液	RSウイルス	
12/26	手足口病	2	咽頭拭い液	エンテロウイルス 71型 ヒトヘルペスウイルス 6型	
1/6	ヘルペスウイルス性歯肉炎	2	咽頭拭い液	単純ヘルペスウイルス 1型	
1/6	咽頭気管支炎	4	咽頭拭い液	アデノウイルス	
12/28	感染性胃腸炎	6	糞便	ノロウイルスG II	
12/28	感染性胃腸炎	6	糞便	ノロウイルスG II	
1/10	伝染性紅斑	6	咽頭拭い液	パルボウイルスB19	
1/8	不明発しん症	8	咽頭拭い液	アデノウイルス	
12/24	下気道炎	13	咽頭拭い液	EBウイルス エンテロウイルス 71型	
12/25	流行性角結膜炎	24	結膜拭い液	アデノウイルス	
1/8	咽頭炎	37	咽頭拭い液	アデノウイルス	

◇遺伝子検査法によるインフルエンザウイルスの亜型別検出件数

検出件数	AH1pdm09*型	AH1型	AH3型	B型
2週	4		6	2
2013-2014年 シーズン累計**	13		17	10

* 2011年4月1日から新型インフルエンザ(AH1N1pdm)が季節性インフルエンザに移行されたため、表記を AH1pdm09 とします。

** 2013-2014シーズンの開始は第36週(2013年9月2日～)

病原体検査情報【検出病原体別・週別】

検出病原体		2013年						2014年	
		47週	48週	49週	50週	51週	52週	1週	2週
ウイルス	アデノウイルス	2	2	1	3	5	2		6
	ライノウイルス	4	5	2	4	3	3		1
	ポリオウイルス								
	コクサッキーウイルスA群	2	2	1					
	コクサッキーウイルスB群			1	1				
	エコーウイルス	1							
	エンテロウイルス71	1		3			2		1
	その他のエンテロウイルス	2	1		1				
	単純ヘルペスウイルス	1							1
	水痘・帯状疱疹ウイルス				1				
	ヘルペスウイルス6/7	3	1		3	5	1		5
	EBウイルス			1	1		1		
	サイトメガロウイルス								
	ムンプスウイルス								
	麻疹ウイルス								
	風疹ウイルス								
	パルボウイルスB19		2	1		2			1
	RSウイルス	3	1	2	1	2	1		1
	ノロウイルス	1	5	4	3	5	2		6
	ロタウイルス				1				
インフルエンザウイルスAH1									
インフルエンザウイルスAH3		1		1		5		6	
インフルエンザウイルスB	2	2		2	1	1		2	
インフルエンザウイルスAH1pdm09			1	2	2	4		4	
デングウイルス(抗体を含む)				1					
その他のウイルス	1	2	1	3					
細菌	カンピロバクター								
	サルモネラ								
	腸管出血性大腸菌								
	その他の腸管系病原菌								
	溶血性レンサ球菌								
	百日咳								
	マイコプラズマ								
	その他の細菌								
その他の病原体									

病原体検査情報【検出病原体別・臨床診断名別】

2013年47週～2014年2週

臨床診断名 検出病原体		インフル エンザ	上 気 道 炎	下 気 道 炎	感 染 性 胃 腸 炎	無 菌 性 髄 膜 炎	咽 頭 結 膜 熱	A 群 溶 連 菌 咽 頭 炎	流 行 性 角 結 膜 炎	へ ル パ ン ギ ー ナ	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	不 明 発 し ん 症	流 行 性 耳 下 腺 炎	水 痘	麻 し ん	風 し ん	そ の 他	
搬入検体数		48	13	22	36	26	8	1	3	3	8	7	18	3	1		1	45	
ウ イ ル ス	アデノウイルス		3	2	1		4		2			1	4					4	
	ライノウイルス	1	2	6	2		1			1		1	4	1				3	
	ポリオウイルス																		
	コクサッキーウイルスA群			1						1			2					1	
	コクサッキーウイルスB群	2																	
	エコーウイルス				1														
	エンテロウイルス71		1	1	1						4								
	その他のエンテロウイルス		1	1							1		1						
	単純ヘルペスウイルス						1												1
	水痘・帯状疱疹しんウイルス													1					
	ヘルペスウイルス6/7										1		6						11
	EBウイルス		1	1										1					
	サイトメガロウイルス																		
	ムンプスウイルス																		
	麻疹ウイルス																		
	風しんウイルス																		
	パルボウイルスB19												4	2					
	RSウイルス		2	9															
	ノロウイルス				25														1
	ロタウイルス				1														
インフルエンザウイルスAH1																			
インフルエンザウイルスAH3	13																		
インフルエンザウイルスB	8		1							1									
インフルエンザウイルスAH1pdm09	12		1																
デングウイルス(抗体を含む)																		1	
その他のウイルス				7															
細 菌	カンピロバクター																		
	サルモネラ																		
	腸管出血性大腸菌																		
	その他の腸管系病原菌																		
	溶血性レンサ球菌																		
	百日咳																		
	マイコプラズマ																		
	その他の細菌																		
その他の病原体																			

月報告 定点把握対象疾患 報告数 2013年12月

定点種別	対象疾患	性別	報告数	定点当たり	合計	定点当たり	報告医療機関数	定点医療機関数
性感染症	性器クラミジア感染症	男	114	2.07	185	3.36	55	55
		女	71	1.29				
	性器ヘルペスウイルス感染症	男	72	1.31	109	1.98		
		女	37	0.67				
	尖圭コンジローマ	男	67	1.22	90	1.64		
		女	23	0.42				
	淋菌感染症	男	72	1.31	82	1.49		
		女	10	0.18				
	膺トリコモナス症 *1	男	1	0.02	9	0.16		
		女	8	0.15				
梅毒様疾患	男	9	0.16	10	0.18			
	女	1	0.02					
基幹	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	男	51	2.04	72	2.88	25	25
		女	21	0.84				
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	男	14	0.56	26	1.04		
		女	12	0.48				
	薬剤耐性緑膿菌感染症	男	1	0.04	2	0.08		
		女	1	0.04				
薬剤耐性アシネトバクター感染症 *2	男							
	女							

2014/1/20

*1 性感染症定点から報告される『膺トリコモナス症』とは、原虫の一種である膺トリコモナス(Trichomonas vaginalis)による疾患を指し、女性の膺、男性の尿道、前立腺などの生殖器や泌尿器に寄生して引き起こされる感染症である。ヒトに寄生するトリコモナスには、他に口腔トリコモナスや腸トリコモナスがある。

*2 2011年2月1日より新たに指定された。

月報告 定点把握対象疾患(性感染症・基幹) 報告数【年齢階級別】2013年12月

男										
年齢階級	性器 クラミジア 感染症	性器 ヘルペス ウイルス 感染症	尖圭コンジ ローマ	淋菌感染症	陰トリコ モナス症	梅毒様疾患	メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌 感染症	ペニシリン耐性 肺炎球菌 感染症	薬剤耐性 緑膿菌感染症	薬剤耐性 アシネトバク ター感染症
0歳							4			
1～4歳							1	2		
5～9歳							2			
10～14歳										
15～19歳		1	1	2			8			
20～24歳	12	7	2	10		1				
25～29歳	30	5	9	17			1			
30～34歳	20	14	14	19		2	1			
35～39歳	15	9	14	7		4	2	1		
40～44歳	15	11	7	9			2			
45～49歳	13	6	12	4		1	2			
50～54歳	3	8	3	1						
55～59歳	3	5	2			1	2			
60～64歳	1	2	1	2	1		1			
65～69歳	2	3		1			4	2		
70歳～		1	2				21	9	1	
合計	114	72	67	72	1	9	51	14	1	
先月数	99	70	61	78		6	48	17	5	
増減数	15	2	6	-6	1	3	3	-3	-4	

女										
年齢階級	性器 クラミジア 感染症	性器 ヘルペス ウイルス 感染症	尖圭コンジ ローマ	淋菌感染症	陰トリコ モナス症	梅毒様疾患	メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌 感染症	ペニシリン耐性 肺炎球菌 感染症	薬剤耐性 緑膿菌感染症	薬剤耐性 アシネトバク ター感染症
0歳							1	1		
1～4歳							1	6		
5～9歳								1		
10～14歳										
15～19歳	5		1	2						
20～24歳	23	12	7	5	2					
25～29歳	17	4	5	2	1		1			
30～34歳	12	8	5	1						
35～39歳	6	1	2							
40～44歳	3	6	2							
45～49歳	4	1	1				3	1		
50～54歳	1	3			2	1	1			
55～59歳		1			3		3			
60～64歳		1					1		1	
65～69歳							2	1		
70歳～							8	2		
合計	71	37	23	10	8	1	21	12	1	
先月数	80	32	27	20	6	1	27	19	3	
増減数	-9	5	-4	-10	2		-6	-7	-2	

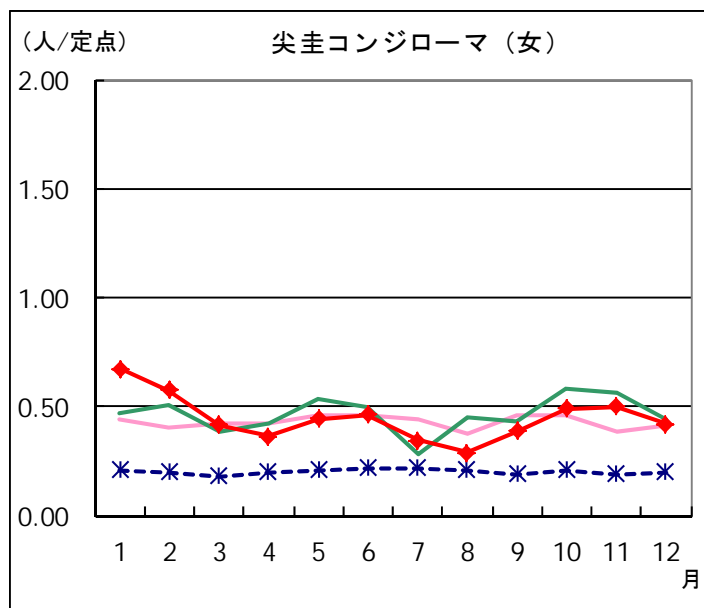
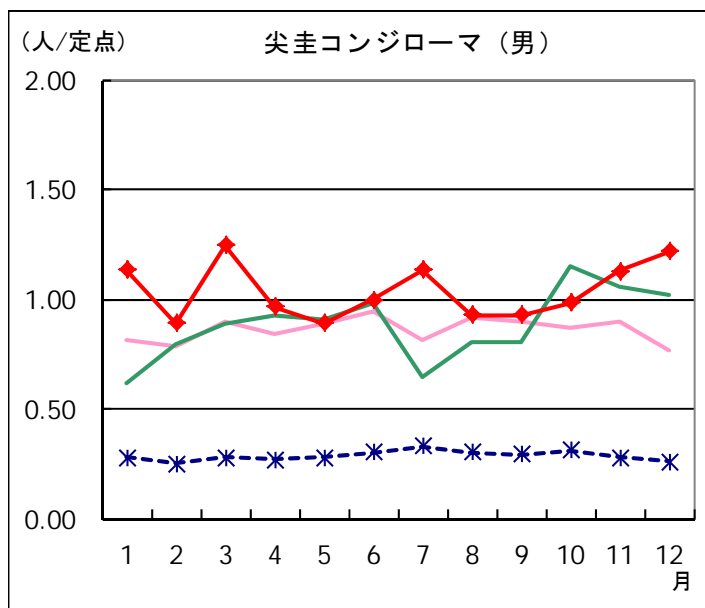
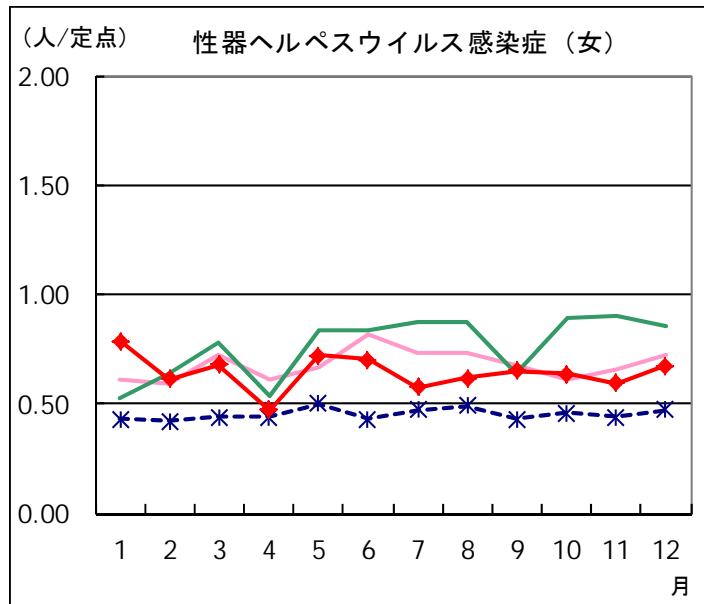
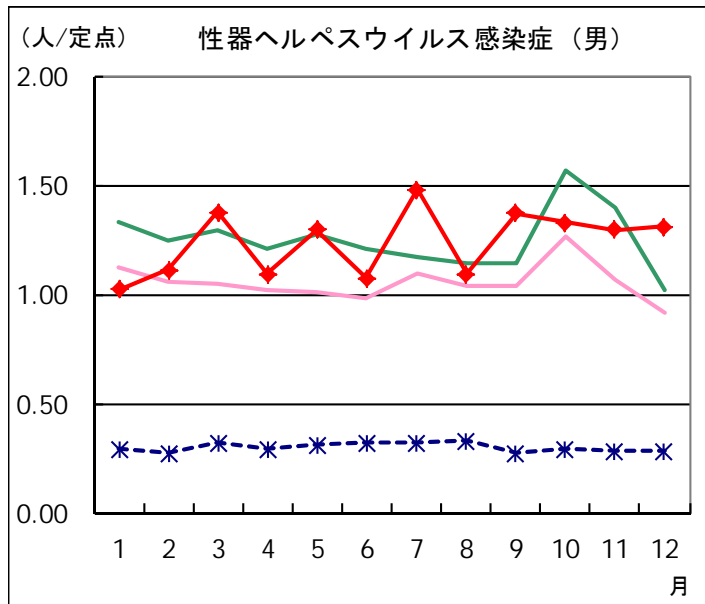
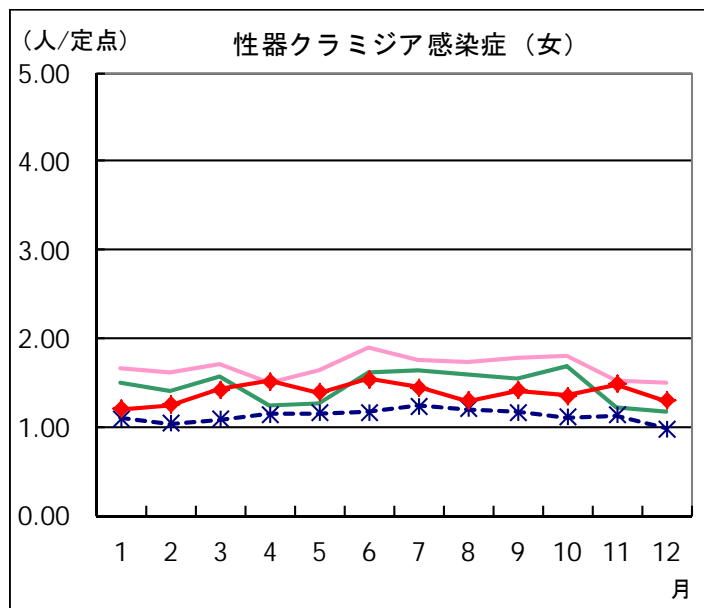
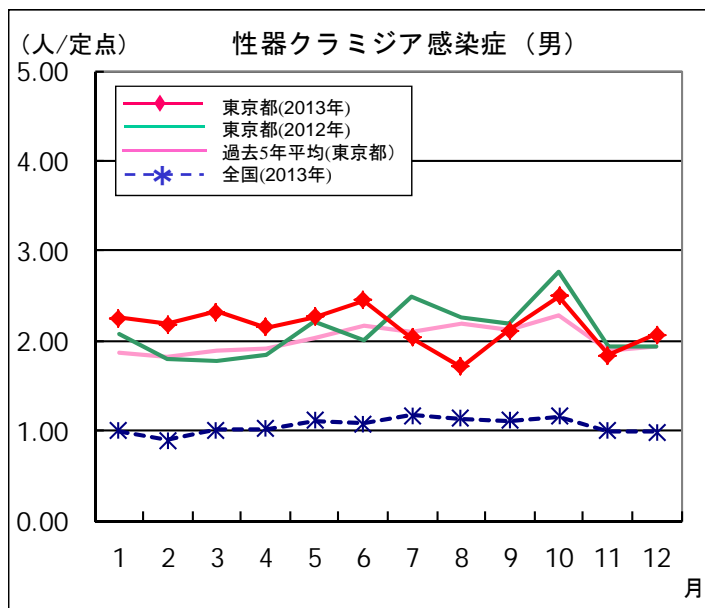
月報告 定点把握対象疾患(性感染症) 報告数【保健所別】 2013年12月

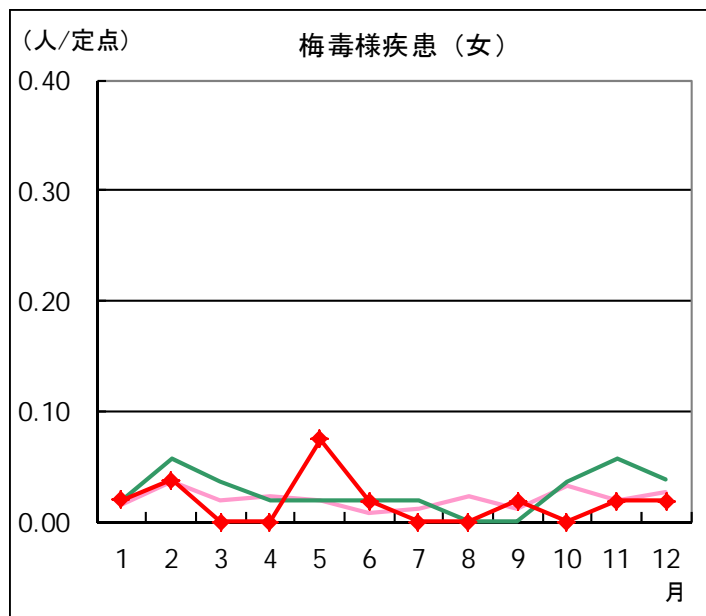
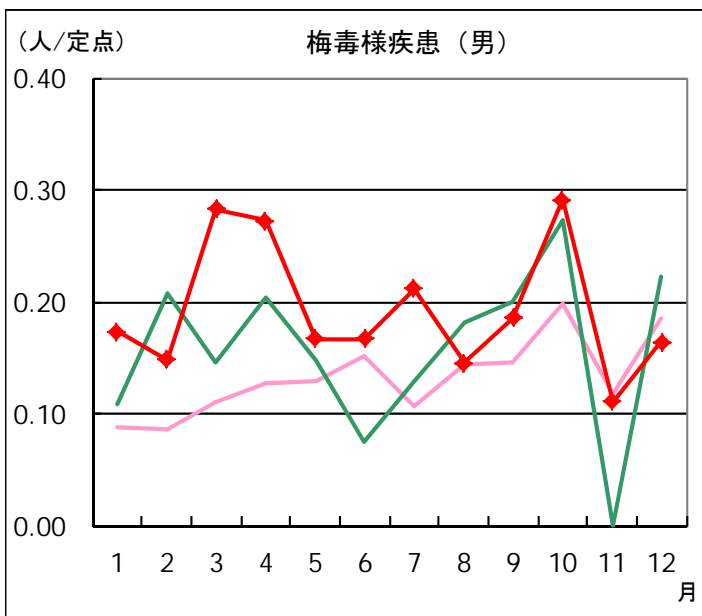
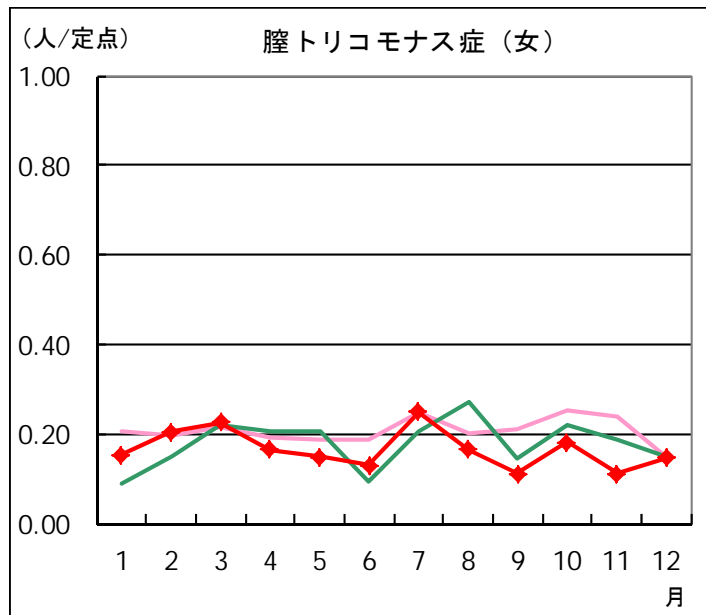
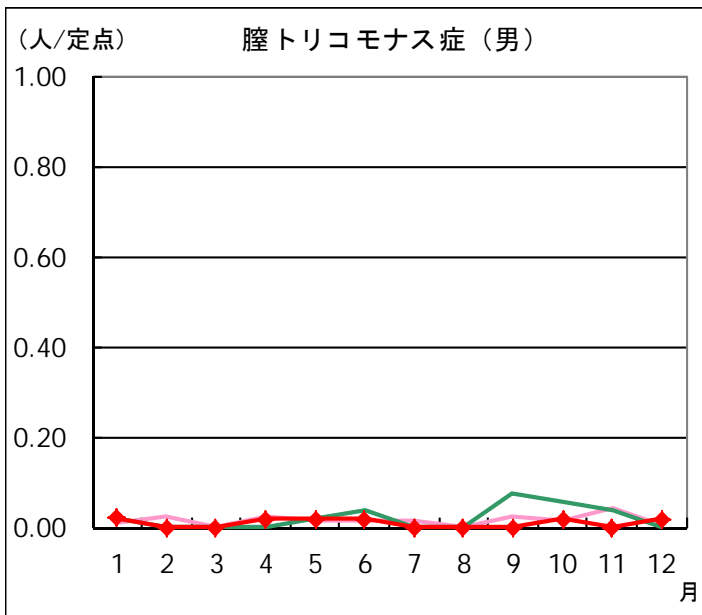
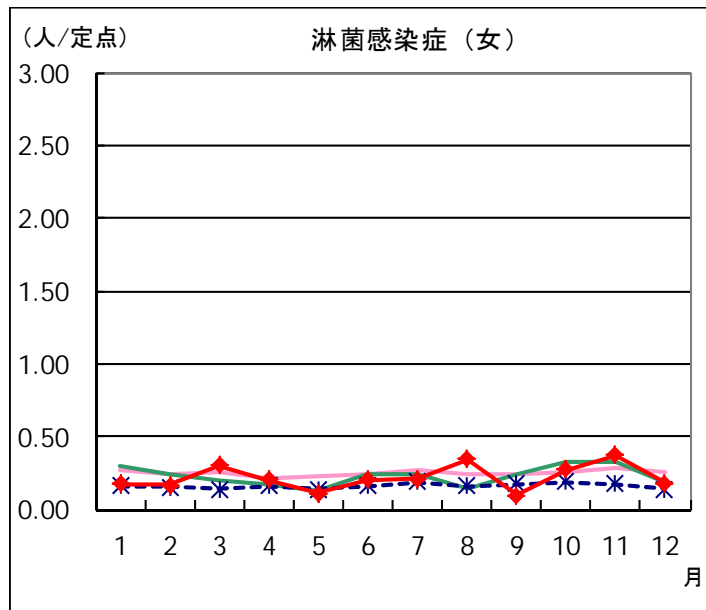
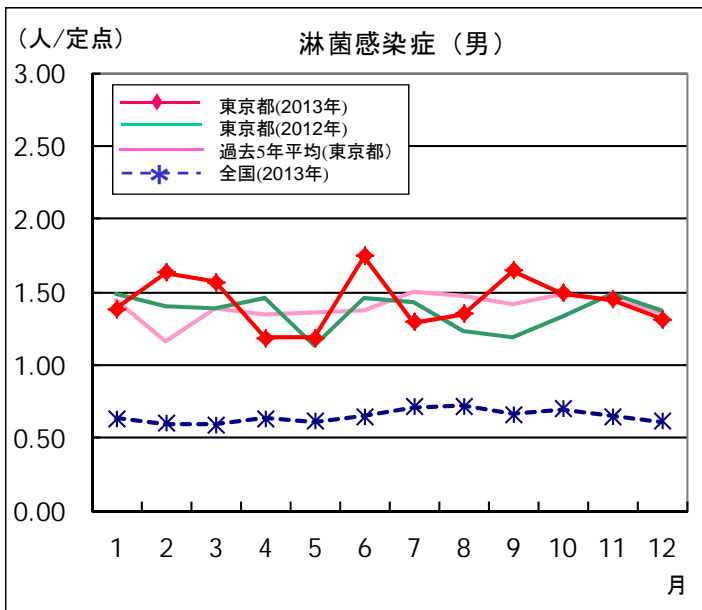
男								
保健所名	定点数	性器クラミジア 感染症	性器ヘルペス ウイルス感染症	尖圭 コンジローマ	淋菌感染症	臍トリコモナス症	梅毒様疾患	総 計
千代田	2	15	3	3	15			36
中央区	3	10	4		3			17
みなと	2	12	30	15	8			65
新宿区	7	25	16	36	17	1	8	103
文京	1	2	1	2	2			7
台東	2							
墨田区	2	4	1		3			8
江東区	2	7	8	2	4		1	22
品川区	1	5	3	1	6			15
大田区	2	4			3			7
渋谷区	5	8	3		2			13
中野区	2	1		1				2
杉並	2	1						1
池袋	3	13	3	6	8			30
北区	1	1						1
荒川区	1							
板橋区	2	2		1	1			4
足立	2	3						3
江戸川	2							
八王子市	4							
町田市	1							
多摩立川	2	1						1
多摩府中	3							
多摩小平	1							
合 計	55	114	72	67	72	1	9	335
定点当たり		2.07	1.31	1.22	1.31	0.02	0.16	6.09

女								
保健所名	定点数	性器クラミジア 感染症	性器ヘルペス ウイルス感染症	尖圭 コンジローマ	淋菌感染症	臍トリコモナス症	梅毒様疾患	総 計
千代田	2	2						2
中央区	3		2					2
みなと	2	3	6	4			1	14
新宿区	7	4	1	10	2	2		19
文京	1							
台東	2	5						5
墨田区	2	3	1					4
江東区	2		1					1
品川区	1							
大田区	2	10	1					11
渋谷区	5	5	9	5	2			21
中野区	2			1				1
杉並	2		1					1
池袋	3	9	2	1	2	1		15
北区	1							
荒川区	1	1						1
板橋区	2	1	3					4
足立	2			2	1			3
江戸川	2	8	3			3		14
八王子市	4	3	3		1			7
町田市	1	4	3			1		8
多摩立川	2	12			2			14
多摩府中	3	1						1
多摩小平	1		1			1		2
合 計	55	71	37	23	10	8	1	150
定点当たり		1.29	0.67	0.42	0.18	0.15	0.02	2.73

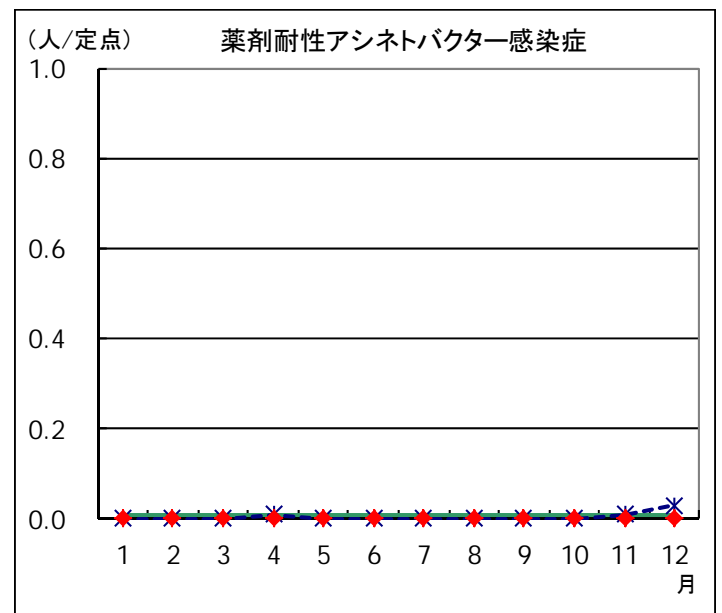
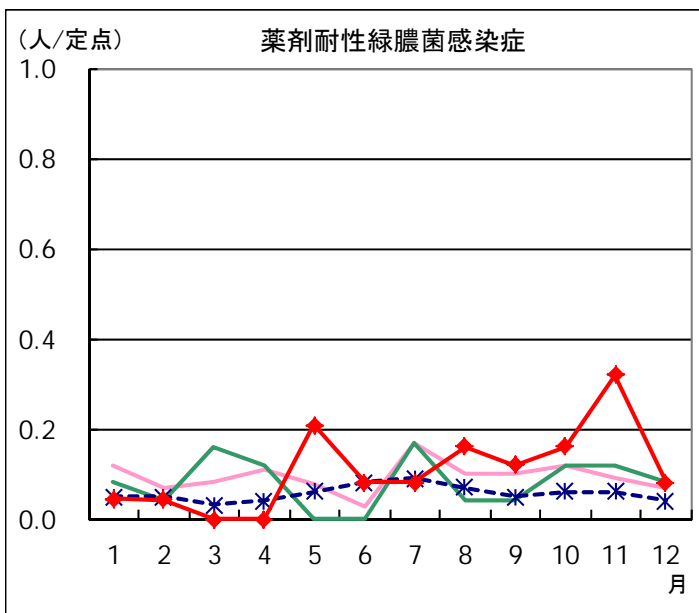
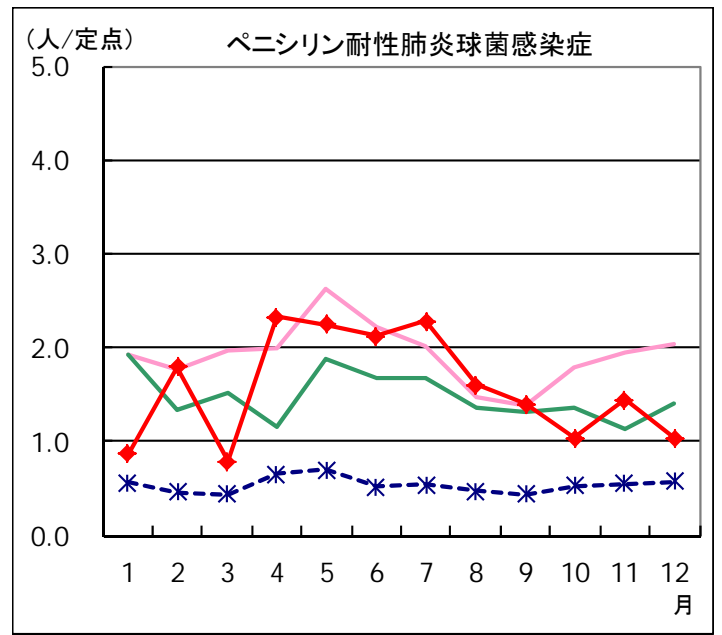
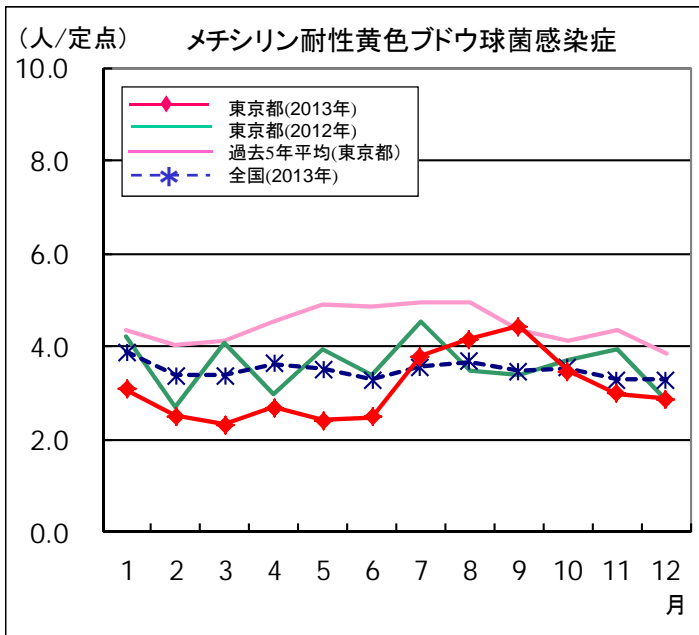
月報告 定点把握対象疾患報告数【月別発生状況】 2013年12月現在

◆ 性感染症定点





◆ 基幹定点



月報告 病原体検査情報

◇病原体検出状況

受付月日	臨床診断名	年齢	性別	検査試料	検出病原体	検査法
12/11	陰茎ヘルペス	25	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	単純ヘルペスウイルス 1型	遺伝子
12/18	尿道炎	26	男	尿	クラミジア	
12/25	陰茎コンジローマ	27	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	ヒトパピローマウイルス 11型 ヒトパピローマウイルス 56型	
12/13	尿道炎	27	男	尿	淋菌 クラミジア	
12/6	尿道炎	28	男	尿	クラミジア	
12/18	尿道炎	29	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	淋菌	
12/11	尿道炎	30	男	尿	クラミジア	
12/11	陰茎ヘルペス疑い	33	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	単純ヘルペスウイルス 2型	
12/2	性器ヘルペス	34	女	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	単純ヘルペスウイルス 1型	
12/11	亀頭包皮灸	39	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	単純ヘルペスウイルス 2型	
12/4	尿道炎	45	男	尿	クラミジア	
12/20	尿道炎	47	男	尿	淋菌 クラミジア	遺伝子 分離同定
12/4	淋菌性尿道炎	47	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	淋菌	
12/27	コンジローマ	51	男	コンジローマ患部生検	ヒトパピローマウイルス 11型 ヒトパピローマウイルス 54型	遺伝子
12/20	尿道炎	51	男	尿	淋菌	
12/18	陰茎ヘルペス	52	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	単純ヘルペスウイルス 2型	
12/18	尿道炎	53	男	尿	クラミジア	
12/25	尿道炎	65	男	尿	クラミジア	

<感染症豆知識>

結核の多剤耐性菌と新薬

結核は 1950 年代まで不治の病と呼ばれたが、1963 年に画期的な抗結核薬であるリファンピシン（RFP）の登場を契機に薬で治せる時代が到来した。

1970 年代には既存のイソニコチン酸ヒドラジド（INH）やピラジナマイド（PZA）等を加えた世界標準レジメンが確立して、感受性結核菌なら 6 ヶ月の服用で 100% 治るようになった。しかし、その副作用として結核の新薬の開発はストップして、現在まで 40 年以上にわたって、この標準レジメンは更新されることなく使われてきた。

1980 年代後半には、標準レジメンのキードラッグである INH・RFP 両剤耐性の多剤耐性結核（MDR）による院内集団感染事件が、米国各地で発生して死者 150 人を超える大惨事となった。MDR 患者は、肺葉切除や抗結核薬の併用療法をしても 50～70% の治癒率で、5 年で 50% が死亡する予後不良の疾患である。

WHO の発展途上国における結核制圧の世界戦略は、大多数を占める感受性結核患者に標準レジメンを確実に提供して新たな既治療 MDR 患者の発生予防に重点を置いて、莫大な費用のかかる MDR 患者の治療には消極的だった。しかし旧ソ連邦諸国や中国では、既治療 MDR 患者から感染して発病した未治療 MDR 患者が増加して、新登録結核患者の 10% 以上を占めて危機的な事態になっている。

こうしたなかで、新規抗結核薬の開発が進められてきたが、先陣を切って 2013 年 1 月に 50 年ぶりの新薬ベダキリンが米国で承認・販売された。日本発の強力な新薬デラマニドも承認申請の段階にあるが、MDR 治療には多種類の新薬が必須なので更に新薬の登場が望まれる。

（文責 結核予防会複十字病院 尾形英雄）